

2023年度（令和5年度）
第2回 福山市環境審議会 議事概要

1 日時等

日時：2023年（令和5年）11月16日（木）10:00～12:00
場所：福山市役所 3階 中会議室

2 出席委員

西村和之 会長，中井智司 副会長，青山進 委員，生田政代 委員，岡部真智子 委員，栗田貴生 委員，小林仁志 委員，佐々木伸子 委員，澤田結基 委員，園尾俊昭 委員，辻和夫 委員，寺澤恵美 委員，八杉光乗 委員

3 欠席委員

川上富美子委員，平田教至 委員

4 議事

- (1) 福山市環境審議会の開催スケジュール
- (2) 第二次福山市環境基本計画の基本となる事項
- (3) 第二次福山市環境基本計画（第1期計画）（基本目標2～5）の課題と今後の取組
- (4) 重点プロジェクトの再検討
- (5) 第二次福山市環境基本計画（第2期計画）（素案）

5 議事要旨

- 会議は、公開で行われた。
- （1）及び（2）について事務局が説明した。
- （3）から（5）については、事務局が説明し、質疑応答を行った。

（意見の概要）

第二次福山市環境基本計画（第1期計画）（基本目標2～5）の課題と今後の取組について

○紙類は、回収日を定めたことによって、資源化への意識付けにも非常に効果があったと理解している。衣類・布類の資源化については、各店舗・系列会社において様々な取組がなされているが、市も事業を拡大することはできないか。衣類・布類の回収日を定めることは、廃棄物処理法上、問題があるのか。

⇒業界関係者の方との意見交換を含め、市民に向けたプラットフォーム作りやリサイクルの流れを定着させることは、非常に有意義と考え、具体的な事業化が可能かどうかも含め、引き続き検討する。また、廃棄物処理法上、家庭ごみとして出る衣類を市が回収することに、問題はないが、現時点では、ごみステーションでの行政回収は困難であると考えられるため、公共施設を中心とした拠点回収の検

討を進めていきたい。

○福山市の市街化区域における下水道の延伸工事の現状について教えていただきたい。

⇒市街化区域の中を下水道の事業計画区域として定めているが、市街化区域全体の延伸工事はまだ終わっておらず、国の予算を活用し、計画的に普及させている。2022年度（令和4年度）末の公共下水道の人口普及率（公共下水利用可能人口／行政人口）は、76.3%であり、少しずつ増加している。また、公共下水道が使える状態であるが、本管に接続されていないのは5%程度である。

○福山市における有害鳥獣による被害額算出方法及び専門家の存在について教えていただきたい。

⇒被害額は、主に農業保険の被害額等から算出しているが、ハクビシンやタヌキ等の小動物による被害は家庭菜園が多く、被害の届出の際に聞き取り、推定で算出している。また、福山市には専門家はいないが、広島県の研修への参加や専門家を招いた講演会の開催、地域での有害鳥獣対策のご指導をいただいている。

○動物の出没状況の基礎データは、どのように管理されているのか。市民が動物の出没情報を簡単に寄せたり、得られたりできるような仕組みが構築できれば、その後の対策で非常に有用なデータになるのではないか。

⇒出没状況データに関しては、昨年度から整理を始め、現在、出没箇所を地図に記載する作業を行っている。

○「超高齢社会に対応した廃棄物処理の取組」は、高齢者の日常生活におけるごみのみが対象なのか、それとも、例えば終活の一環としての家財道具や残置物の処分なども対象に含まれるのか、その対象について教えていただきたい。

⇒今年度から、高齢者や障がい者へのごみ出し支援モデル事業を開始した。当面の間は、安否確認を含め、日常生活から出る家庭ごみを対象とした支援を進めていく。終活や残置物の整理については、今後も一般廃棄物収集運搬業許可業者を中心に、公と民の役割分担を明確にしながら、事業を進めていきたいと考えている。

○人口減少に伴い、空家の相談が増えており、その空家に廃棄物が投棄されるという事案も多く起きている。例えば弁護士や司法書士との連携や市の相談窓口の設置など、空家に関する施策を何か講ずることはできないか。

⇒空家対策については、建設局建築部住宅課が「第2期福山市空家等対策計画」を定めて各種施策を展開している。各種施策、相談窓口については、「空き家について考えるハンドブック」を作成しており、参考にしていきたい。（後日回答）

○栄養塩管理運転の試行について、広島県の下水処理場においても行われていると聞いたが、現状はどうなっているのか。

⇒昨年、広島県が、4か所（広島市、廿日市市、呉市、福山市〔松永湾〕）で現況調査を行っている。

今年度の秋から、栄養塩の管理運転の検証を行うため、呉市と廿日市市で下水道の緩和運転を実施し、この結果を基に「栄養塩管理運転計画」の策定を行う予定。

○「食品ロスの削減（フードドライブ）」の今後の取組として、「食品ロスの発生量の把握」とあるが、現状把握だけではなく「食品ロスの発生量の把握と対策の検討等」とするのはどうか。

⇒今後、検討を進める。

○基本施策「生物多様性の保全」について、環境指標「生物多様性の保全に関心を持っている人の割合」の達成状況は「○」となっているが、その個別事業「生物多様性地域戦略策定の検討」の現状評価は、「△」となり、「生物多様性の保全に関心が低い」ことが課題とされている。達成状況の評価を再考又は生物多様性の保全対策の実施などを指標とするのはどうか。

⇒環境指標は、2017年度（平成29年度）における割合（11%）に対する市の目標値の達成状況を示したものであり、2023年度（令和5年度）の目標値（22%）を達成する見通しであることから「○」としている。しかし、目標値は達成しているものの、関心を持っている人の割合が20%程度と低い状態であることについては課題意識を持っており、更なる環境意識の向上に向けた取組が必要と考えている。（後日回答）

重点プロジェクトの再検討について

○ブルーカーボンについてはまだ実験段階であると考えているが、藻場の調査をはじめとした今後の具体的な事業の展望を教えてください。

⇒ブルーカーボンについては、温室効果ガスの削減効果に合わせて、アサリや魚類等が増加することから、尾道市が事業を進め、今年度からクレジットの売却を行っている。今後、福山市では、民間事業者の事例を参考にしつつ、ブルーカーボンの視点を入れ、漁業関係者や国と連携しながら、藻場の調査・整備を行っていききたいと考えている。

○木質バイオマスからバイオマス事業の促進へと変更した理由は何か。また、対象とするバイオマスは何か教えてください。

⇒材料となる木材に対して、現在、主に急傾斜地の森林整備事業を実施しているが、搬出や運搬に多大なコストがかかったり、木材の生育適地が市内に非常に少なかったりする中、盛んに伐採や生産事業も行われていないため、木質バイオマスを推進するのは難しいと思われる。しかし、新たに他のバイオマス発電について、様々な事業形態はあるが、可能性を追究していききたいと考えている。

○自転車駐車場は、量的には既に確保され、改善の余地はないということで良いか。

⇒福山駅周辺の東西の市営駐車場の内、駐車台数が不足していた西側において、今年度中にその不足分（200台）を確保する整備事業が終了予定であるため、量的な確保という点で目標を達成する見通しとした。

○自転車通行空間の整備については、未整備の路線はないということで良いか。

⇒福山駅周辺 5km 圏域で実施しており、50%程度で完了している。特に自転車の利用が多い区間を優先的に整備していることから、駅付近の中心部の整備率は高くなっている。また、自転車通行空間の整備の目標値は、毎年、整備目標値を設定し、その目標値が達成されるかで評価している。

○レンタサイクル事業はどのような推移で利用者が増加し、目標を達成したと判断したのか。

⇒レンタサイクルの利用台数は、年間 13,000 台の目標値に対して、2022 年度（令和 4 年度）は 14,385 台で目標を達成しており、稼働率はほぼ 100%となっているため、事業が順調に進んでいると考えている。

○カーボンニュートラルポートがどのようになったときに完成形となるのか、分かるように提示した方が良いのではないか。

⇒福山港でも国・県が主体となって、行政と民間が連携した準備会が立ち上がったため、今後、協議会で検討していく予定となっている。

○生ごみのコンポストの活用方法について、福山市の施策として組み込むことはできないのか。

⇒生ごみのコンポスト等に関して、約 20 年間、生ごみ処理器設置への補助をしていたが、近年においては、申請も激減した。そのため、一定程度の役割を果たしたとして補助制度は終了したが、引き続き、水切りを中心とした生ごみに関する啓発を強化していく。

○プラスチックごみに対する意識付けのため、環境学習の支援に体験学習の要素を取り入れるのはどうか。

⇒小学校への環境出前講座において、海洋プラスチック・マイクロプラスチックに関する講座も行っている。今後も箕沖町のリサイクルプラザでは体験的な取組も行いながら、今後も子どもたちに体験していただく教材を充実させていく。

第二次福山市環境基本計画（第 2 期計画）（素案）について

○有機フッ素化合物については、福山市では問題ないレベルということで良いのか。

⇒飲料水への影響について、調査を行っており、芦田川への影響はないと認識している。

以 上